

鉄道遺産の歴史 誇り

敦賀、南越前

講座に中高生12人

敦賀市と南越前町、滋賀県長浜市の鉄道遺産について学ぶ講座が29日、敦賀市と南越前町で開かれた。両市の中高生12人が座学や現地見学を通して歴史に理解を深めた。
(吉田拓弥)

現地で魅力体感

旧北陸線トンネル群など3市町にまたがる鉄道遺産で構成されるストーリー「海を越えた鉄道く世界へつながる鉄路のキセキ」は2020年6月、文化庁の「日本遺産」に認定された。講座は次世代を担う子どもたちに鉄道遺産とストーリーを継承し、未来のガイド発掘につなげようと、3市町の観光連携協議会が企画した。

敦賀市の資料館「人道の港敦賀ムゼウム」ではトンネル探検家、花田欣也さんが講演した。1884(明治17)年に長浜―敦賀間で鉄道が全線開通したと紹介。明治政府は鉄道と重要な港を直結し、多くの人や物資を輸送することが重要と考えていたとし、「旧北陸線トンネル群があったから日本の鉄道ネットワークが飛躍的に発展し、地域の産品も輸送できた」と説明した。自分たちが住む地域に貴重な鉄道遺産があることを誇りに思っていると伝え「PRには写真やSNS(交流サイト)も効果的だが、皆さ

んの言葉で良さを伝えることが一番大切」と訴えた。榎曲トンネル(敦賀市)では、花田さんや観光ボランティアガイドつるがの増田正樹会長と一緒に散策。出入り口や内壁が全てれん

が積みになっていることなどを確認した。山中トンネル(同市―南越前町)も見学したほか、ワークブックを制作したり、ガイド認定テストを受けたりもした。



花田さん(右)の講演を聞く中高生=29日、敦賀市の資料館「人道の港敦賀ムゼウム」